

環境科学科：三浦利紀 弓削駿也 動物応用科学科：吉田航太郎
担当：村山史世准教授・坂西梓里助教・ジョナサン・リンチ講師

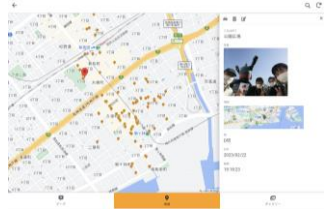
研究の背景と目的

- ①座間市環境ワークショップ：座間市第2次環境基本計画策定にあたり、座間市市役所環境政策課から市民環境ワークショップの企画・運営を依頼された。グリーンマップを活用した市民参加型ワークショップにより、第2次環境基本計画の基礎資料とする。
- ②サイエンスアゴラ2022：暮らしやすい未来構築のために、多くの知恵や意見が集まる場において、SDGsサイエンスショップの成果を発信。SDGsサイエンスショップが実施したSDGsグリーンマップの手法と成果をアピールする。
- ③神戸市長田区デジタルマッピング：Google App Sheet を活用したデジタルマッピングの手法を活用してグリーンマップの作成を試行する。Google App Sheetを活用したデジタルマッピングによりSDGsグリーンマップを作成し、地域情報の収集・共有。



研究・調査方法

- ①座間市環境ワークショップ：グリーンマップアイコンを用いて、現地を散策し現在の課題や資源をマッピングする。未来の座間市のグリーンマップアイコンを現在の地図に重ねる。
- ②サイエンスアゴラ2022：会場のミニステージにてプレゼンテーションを行った。
- ③神戸市長田区 デジタルマッピング：班ごとに街歩きをし、Google App Sheetに位置情報、日時、写真などを入力し、会場に戻って情報を共有する。



結果と考察

- ①座間市環境ワークショップ：座間市第2次環境基本計画に活用された。
- ②サイエンスアゴラ2022：90分のステージの中で、足を止めて企画を見てくれた 科学に関心のある人たちと交流できた。今後の課題として、SDGsグリーンマップを作るなど、実施方法を工夫することが必要であることが分かった。
- ③神戸市長田区 デジタルマッピング：多様な大学教員や神戸市役所、市民などと、街歩きを通して、地域情報とデジタルマッピングの手法を共有することが出来た。また、武蔵野大学の方々と奈良県天川村で行われるデジタルマッピングに協力する運びとなった。

これから

SDGsサイエンスショップはSDGsグリーンマップを軸に、GIS（地理情報システム）を活用したデジタルマッピングの手法の開発を続ける。サイエンスアゴラ2023では、デジタルマッピングのワークショップを行いたい。

